

## 下流の農業者を考え、直轄外の水路まで「ゴミ」処理 ～9月26日秋田県雄物川筋土地改良区の管理施設を現地踏査～

### 1 皆瀬1号幹線(石成分水工)横手市平鹿町

■何れも直接管理のため、職員がゴミ処理を実施。(7人程度)

4～5人は季節雇用者を雇って対応。

■かんがい期(5月6日～9月5日)は胴長を着用し、雪ベラなどを使って毎日処理。

#### 《ゴミの種類》

りんごの生ゴミ、サクランボのハウスビニールなど捨てた場所の特定ができそうなものが多く流れできている。



### 2 石成分水工の上流で皆瀬1号幹線をサイホンで横断する直轄外の水路

■この水路は十文字の町中を流れしており、生活に密着している。

■直接土地改良区の管理ではないが、幹線を横断している水路なので、以前から管理している。(ゴミが溜まると住民から苦情の電話が殺到する)

■サイホンは、一見危険そうには見えないが、落ちると深く引きずり込まれてしまう。

#### 《ゴミの種類》

ペットボトルや食べ物のトレーなどの生活ゴミ、処理が大変なポンベ缶など。



### 土地改良区の意見

肉体労働として職員への負担が大きいのはもちろんであるが、合併前はゴミ処理の費用負担があり、まだ頑張れた。せめて処理費用だけでも、また横手市でバックアップを行ってくれると助かる。



▲今度収集してもらう予定のコンテナ。費用はすべて土地改良区負担

## 「あきた体験農園」大住小学校の児童とさつまいも掘り



10月9日、秋田市立大住小学校の3年生103人と一緒に、春から育ててきたサツマイモの収穫を行いました。農園の黒崎代表が「人間も作物も1日も無駄な日は無い。作った人の努力に感謝して、『いただきます』『ごちそうさま』を言えるようにしましょう」と挨拶し、大住小学校の安宅校長も「皆さん、サツマイモに負けていませんか。春から頑張って育ててきたサツマイモも収穫するとここで終わり、皆さんのが栄養となるのです。皆さん、心も体も今後ますます成長させて下さい。芋掘り頑張って！」と、気合いを入れていました。子ども達は慣れない作業に最初は戸惑い気味でしたが、一つ芋を取る要領を覚えると、後は我先にとまだ掘り終えていない所に向かっていました。児童は「最初植えたときは育つかなと思ったけど、沢山育っていて良かった。雑草を抜いて大きく育ててくれてありがとう。感謝の気持ちで美味しく食べたい」と感想を述べ、担当の先生は「ただ植えて収穫だけではなく、合間に草取りもあったので畑に愛着が湧き、楽しみにしていた。できた芋は持ち帰りして家でも成果を報告して欲しいと思う。また、今日収穫した芋を廊下で展示し、他学年にもサツマイモの成長を知らせたい」と体験農園での活動を次に活かす方法を考えていました。

